

全国学力学習状況調査（学力調査）に成果の一端を見る PART

先号に引き続き、全国学力調査の結果分析の発信をいたします。前回と若干重なるデータもありますが、今後の学力向上策と関連をしておりますので共通理解をお願いいたします

【平成29年度（今年度）結果】

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	76	61	79	47
東京都（公立）	76	60	81	49
全国（公立）	74.8	57.5	78.6	45.9

グレーで色を付けている部分は、全国の平均を上回っている項目です。ご覧の通り、全ての項目で全国平均を上回りました。特に国語Aは東京都の平均に並び、国語Bは東京都の平均を上回ることができました。次に昨年度の結果とも比較をしてみました。

【平成28年度（昨年度）結果】

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	70.6	54.9	74.4	48.3
東京都（公立）	73.8	59.8	79.4	49.8
全国（公立）	72.9	57.8	77.6	47.2

昨年度は、全国の平均を上回っている項目が一つであることから（東京都はいずれも上回らず）本校の学力が調査の面から向上していることが見て取れます。しかし、調査を受けた対象学年が違うので、これをもってすぐに成果が現れたと分析するのは早計でもあります。

そこで、今の6年生が、昨年度受けた東京都の学力向上を図るための調査（都学力調査）とも比較をしてみました。

【平成28年度（昨年度）都学力調査結果】

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	77.8	61.4	63.9	41.4
東京都（公立）	76.5	61.8	67.7	42.9

調査を受けた児童が同じであることから、今年度の結果と比較をするのには信頼性が高いデータであるとも言えます。グレーをつけた部分は東京都との差の開きが大きかった項目であり、基礎基本の力の定着は本校の大きな課題でもありました。この項目が、今年度は少し差が縮まっている（1.8ポイント）ことがわかります。これは、朝学習や算数補充教室、ベーシックドリル等学校が組織的に取り組んできた成果であると考えられます。

一方で、算数Bの結果が伸び悩んでいることも見て取れます。今後はさらに、基礎基本の定着に加え習ったことをベースにして応用問題を解く能力を身に付けていくことが求められます。

次に、各教科における領域別の結果について分析をしてみます。

【領域別結果（国語）】

	国語A 読む力	国語B 読む力	記述式
本校	75.7	49.7	39.2
東京都（公立）	72.7	51.9	42.9
全国（公立）	70.2	49.2	41.7

【領域別結果（算数）】

	算数A 図形	算数A 数と計算	数学的な考え方
本校	87.3	77.2	45.1
東京都（公立）	82.5	82.2	48.3
全国（公立）	81.1	80.6	45.4

国語Aの読む力の項目は、国はもとより都の平均を大きく超えています。国語の基礎基本については、学校全体で組織的な学力向上の取り組みをしてきた成果が結果として現れたことは喜ばしいことです。ご存じの通り、今年度から、「国語科の説明文教材をもとに、読む力を育てる」をテーマに研究に取り組んでいますので、この成果を基礎学力の向上にさらに結びつけてまいります。また、記述式の問題には苦戦をしています。今後も「百マス作文」はもちろん問題解決の中で自分の考えを文章でわかりやすく伝える機会を取り入れていくことも必要です。

算数では、図形の領域において大きな成果が現れました。上の表は、A問題の数値結果ですが算数B問題についても国や都の数値を確実に上回っており、図形に関する領域が確かな学力として定着していることがわかるデータとなっています。一方で算数の数と計算は低い数値です。今後も基礎基本の計算力を身に付けることは本校の継続した課題です。また、「数学的な考え方」についても、国や都よりも低い数値となっています。これは、算数B問題における問題解決能力を育てるために必須の項目であり、今後、この力を伸ばしていくことが本校の学力向上のキーワードになっていくと考えられます。